



5万分の1地質図幅の新刊

藤 沢

FUJISAWA

5万分の1地質図幅
地域地質研究報告

著 者 岡 重文・宇野沢 昭・桂島 茂・
垣見俊弘（環境地質部） 島津光夫（新潟大学）

発 行 工業技術院 地質調査所

取 扱 先 地学文献センター（0423）62-5050

- 「藤沢」図幅地域は 神奈川県のおぼ中央 横浜市の西隣りにある。地域の中央部を相模川が南流している。西側の約4分の1ほどは丹沢山地東麓部に当るが 残る4分の3は 主として相模原台地と呼ばれる洪積台地と 相模川の沖積低地からなっている。
- 丹沢山地東部は 見上博士（横浜国大）の1950年代の研究成果を基礎に 近年当地域の構造や低度変成作用の研究を続けている島津博士（新潟大）によってまとめられた。
- 当地域の主部をなす洪積台地は 今やすみずみまでが東京・横浜の通勤圏となり 住宅団地や工場団地が次々と開発されている。これに加えて 当地域には 新幹線や東名道路など交通の大動脈をはじめ 大小の土木工事に伴う膨大な地下地質（ボーリング）の資料が蓄積されている。

- 一方 この地域の丘陵と台地は 箱根・富士火山由来の厚い火山灰層—関東ローム層—におおわれている。関東ローム層の研究は 関東ローム研究グループによる1965年の総括を基盤として つつ 町田博士（東京都立大）や関東第四紀研究会などによって 近年著しく進展した。当地域南西隅の大磯丘陵では 全層厚約 320mのローム層中にもものだけで250 枚近くの鍵火山灰層が認められている。
- 「藤沢」地域の第四系は ボーリングと関東ローム層の2大資料によって その層序・地史・古環境などが詳細に組み立てられた。段丘面（ローム層基底面）の形は等高度曲線で表わされる。これによって当地域の活構造運動を読みとることもできる。また沖積層も地下地質資料から層に区分され その基底の形態は等深度曲線で示されている。

- 当地域の南部が相模積成盆地の中心部に当るために 埋没段丘が多く見られ 大磯丘陵の北東部では 活構造運動による埋没段丘の変形が明らかにされている。また 相模原台地にも埋没段丘が見られ 過去には沈降地域に当る台地の南部が現在では隆起地域に転じている様子なども明らかにされている。相模川の沖積低地にある埋没段丘の分布や時代が明らかにされ 現在の海岸沿いの沖積低地には約5万年前の軽石流を堆積している埋没段丘も明らかにされている。
- 報告書中には 関東ローム層の全層約320mの総合柱状図により 鍵軽石層の位置・岩相・年代などが示されている。また巻末には 更新世の地下地質を示す5断面図 オールコア17本を含む300本以上のボーリング柱状図 150本の深井戸柱状図などがまとめて示されている。
- この地域の地理的位置からみて 著者らは 「藤沢」図幅が地域開発や環境保全等の基礎資料となり 一種の「環境地質図」として広く利用されることを期待している。

地質ニュース	第309号	5月号
昭和55年5月1日	定価 ¥500	千実費
編集	発行	
発行人	工業技術院 地質調査所	
発行人	林 久 雄	
	株式会社 実業公報社	
	東京都千代田区九段南4の2の12	
	Tel. (03) 265-0951 (代表)	
	振替口座 東京 32466	
総発売元	大蔵省印刷局 政府刊行物仕入部	
	東京都港区赤坂葵町2	
	Tel. (03) 582-4486	
印刷所	共同印刷株式会社	